

入道中
一九〇三年
本号に終止

廢止

達第二十二號

海軍少軍醫候補生實務練習規則左ノ運改正ス

明治三十一年三月五日

海軍大臣 侯爵 西郷從道

海軍少軍醫候補生實務練習規則

- 第一條 海軍少軍醫候補生ニハ一箇年間海軍軍醫學校ニ於テ海軍軍醫タルニ必要ナル特殊ノ學科及其ノ職務ニ極要ナル事項ヲ練習セシム
- 第二條 海軍軍醫學校長ハ海軍高等武官補充條例第十三條ニ依リ卒業試験ニ及第シタル者ノ勤務報告ヲ作り海軍大臣ニ進達スヘシ
- 第三條 海軍軍醫學校卒業試験ニ落第シタル者ハ尙ホ三箇月以内該校ニ於テ其ノ落第シタル科目ノ復習ヲ爲サシメ再試験ヲ行フヘシ
- 第四條 卒業試験ニ及第シタルモノニシテ本官ニ任用セラル、迄ノ間ハ海軍病院ニ於テ軍醫ノ業務ヲ實習セシム

附則

十七

海軍

第五條 本則ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

第六條 明治三十年十二月以前採用シタル海軍少軍醫候補生ニ在テハ明治二十九年達第四十六號海軍少軍醫候補生實務練習規則ヲ廢用シ該則第三條ニ規定シタル科目ヲ海軍軍醫學校ニ於テ練習セシム

達第二十三號

明治二十三年達第八十七號ヲ廢ス

明治三十一年三月五日

海軍大臣 侯爵 西郷從道

達第二十三號

明治二十三年達第八十七號ノ海軍軍人平團乗取並物品携載手續ノ件ニ

十八

海軍

0101

達第二十四號

明治二十三年達第六十號中「海軍高等武官任用條例第十二條」ヲ「海軍高等武官補充條例第十三條」ニ改メ「候補生試用報告」ヲ「候補生勤務報告」ニ改ム

明治三十一年三月九日

海軍大臣 侯爵 西郷從道

十九

海軍

0102

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

達第二十五號

停年計算規則第十六條ノ次ニ左ノ通追加ス

明治三十一年三月十一日

海軍大臣 侯爵西郷從道

第十七條 明治三十一年二月四日以前ニ海軍砲術練習所及海軍水雷術練習所ニ於ケル
下士卒ノ勤務日數ハ總テ海上勤務ニ算入ス

二十

海軍

0103

達第二十六號

艦隊需用品定額表中左記ノ通改正及追加ス

但シ數量表ハ軍務局ヨリ送付セシム

明治三十一年三月十六日

海軍大臣 侯爵西郷從道

航海長官

定備第四類中第二十六號

主計長官

海軍第十四類中第百三十八號水雷艇機關日誌摘要報告ヲ删除シ左ノ五項ヲ加フ

番號	品名	數	考	備
164	水雷艇機關月報	冊		
165	水雷艇機關半年報	冊		
166	艦艇公試成績諸表式	枚		
167	現計費用紙	枚	廢入取出規程第十七號書式	

二十一

海軍

168	爲換金額收證書用紙	枚	軍艦經費爲換拂順 序第二號書式
-----	-----------	---	--------------------

0104

達第二十七號

英國ニ於テ製造中ノ水雷艇驅逐艇左ノ通命名ス

明治三十一年三月十六日

海軍大臣 侯爵西郷從道

- 第一號水雷艇驅逐艇
- 第二號水雷艇驅逐艇
- 第三號水雷艇驅逐艇
- 第四號水雷艇驅逐艇
- 第五號水雷艇驅逐艇
- 第六號水雷艇驅逐艇
- 第七號水雷艇驅逐艇
- 第八號水雷艇驅逐艇

雷 イカサマ
 電 イナリ
 東雲 トウウン
 雲雲 クモクモ
 曙 アサヒ
 夕霧 ユフキリ
 不知火 シラヌヒ

達第二十八號

佛國及獨國ニ於テ製造シ本邦ニ於テ組立ツヘキ百二十噸水雷艇左ノ通命名ス

明治三十一年三月十六日

海軍大臣 侯爵西郷從道

佛國ニ於テ製造

- 第一號百二十噸水雷艇
- 第二號百二十噸水雷艇
- 第三號百二十噸水雷艇
- 第四號百二十噸水雷艇
- 獨國ニ於テ製造
- 第二號百二十噸水雷艇

隼 ハヤブサ
 鷗 ウ
 真鶴 マヅル
 白鷹 シロタカ

0105

達第二十九號

治療品出納規程中左ノ通改正ス

明治三十一年三月十八日

海軍大臣 侯爵西郷從道

第九條中臺灣總督府ノ下「軍務局海軍部」ヲ「海軍幕僚」ニ改ム

第十四條領收票ノ上ニ「請求票及」ノ四字ヲ加フ

第二十八條中「出納原簿」ヲ「原簿」ニ改ム

第三十條及第三十一條中「受拂報告書」ヲ「受拂報告」ニ改ム

第三十二條中「軍醫長」ヲ「醫務部長」ニ改ム

第二表甲艦團其他各部定備療用品中正醫療箱ノ下「艦隊」ニ二組海兵團要港部水雷團ニ各一組ヲ備フ「ヲ」艦隊旗艦、海兵團、要港部、水雷團、臺灣總督府海軍幕僚ニ各一組水雷敷設隊ニハ必要ノ場合ニ之ヲ備フニ改メ副醫療箱ノ次ニ「ナイシカル、バッグ」ヲ加ヘ其ノ下ニ「海岸望遠」ニ各一組ヲ備フ「ヲ」加フ

第二表乙病院試驗用定備品中「洗汽瓶」ノ次ニ「ビニール」トヲ加ヘ其ノ下ニ「八本」ヲ加フ

二十三 海軍

品目明細表一正醫療箱消耗品中「紙袋」ノ次ニ「醫第一號野紙」ヲ加ヘ其ノ下ニ「二十枚」ヲ加フ、醫第二號野紙ノ下「五十枚」ヲ「三十枚」ニ醫第三號ノ下「二十枚」ヲ「十枚」ニ醫第四號野紙ノ下「百枚」ヲ「五十枚」ニ改メ醫第四號野紙ノ次ニ「醫第四號ノ野紙」ヲ加ヘ其ノ下ニ「五十枚」ヲ加フ、醫第五號野紙ノ次ニ「醫第六號野紙」ヲ加ヘ其ノ下ニ「百枚」ヲ加フ、十三行野紙「百枚」ヲ「五十枚」ニ改ム十三行野紙ノ次ニ「同半葉野紙」ヲ加ヘ其ノ下ニ「五十枚」ヲ加フ
同表三函納外科器中氣管截開管導子、挺ノ下「一」ヲ「二」ニ同備考中「軍醫監」ヲ「軍醫中監以上」ニ改ム

同表八携帶藥籠ノ次ニ左表ヲ追加ス

九ナイシカル、バッグ

品名	員數	品名	員數
木綿	(一反五割)三個	脫脂棉花	五十匁
三角綳帶	三個	護謄絆創膏	(筒入)一尺
脫脂綿紗	半反	反沃度仿謄	一五瓦

達第三十號

治療品出納規程中左ノ様式ハ被服物品糧食品治療品計算帳簿其他用紙書式施行ノ日ヨリ廢止ス

明治三十一年三月十八日

海軍大臣 侯爵西郷從道

一藥品及消耗療用品出納原簿

一定備療用品出納原簿

一定備療用品内譯簿

一藥品及消耗療用品出納簿

一定備療用品出納簿

一治療品受拂報告書

一治療品請求票

一治療品、還納、領收、送付、票

一治療品、領收、送付、保管轉換、何々、票



二十四

海軍

一治療品受拂供用代價任書

一治療品、上納、票

0107

達第三十一號

糧食經理規程第二十五條ニ依リ購買スル糧食品代價ハ三十一年度間左表ノ通定ム
明治三十一年三月十八日
海軍大臣 侯爵西郷從道

二十五

海

軍

0108

備考 本表記載外ノ諸外國ニ在リテハ時價ヲ以テ購買スルモノトス

火	酒	燒	耐	一	斗	醬油酢油類			砂糖		茶焙麥類		乾物野菜類		穀類				鳥獸魚肉類			麵包		種	類	品	目	數	量	價	額	別	岸	國	別	
						胡	酥	醬	三	天	焙	茶	生	乾	豆	麥	劉	白	罐	罐	付	付	麵													乾
																																				第一區
																																			第二區	
																																			第三區	
																																			第四區	
																																			第五區	
																																			第六區	
																																			第七區	

達第三十二號

海軍糧食條例第六條及第七條ニ依ルル金額ハ明治三十一年度間左ノ通定ム
 明治三十一年三月十八日
 海軍大臣 侯爵 西郷從道

考 備 清國韓國及亞細亞洲露領沿岸ハ内國額ニ依ル 食料内國乙額ノ支出ハ陸地演習ノ際糧食經理規 程第六條ニ依リ適宜ノ糧食ヲ給與スル場合ニ限 ル	犯 罪 者 食 料	夜 食 料		食 料		食 別	一 食 金 額	
		内 國	外 國	内 國				外 國
				乙 額	甲 額			
		參 錢 五 厘	壹 錢 五 厘	貳 錢 五 厘	六 錢 五 厘			五 錢 五 厘

二一十六
海 軍

0110

達第三十三號

艦團部隊金銭出納規程中左ノ通追加ス

明治三十一年三月二十一日

海軍大臣 侯爵西郷從道

第十五條 主計長ハ金櫃ヲ開閉スルトキハ其ノ都度第八號書式ニ依リ其ノ現在金ノ種額ヲ調査記載スヘシ

第十九條 中水雷團長ノ下左ノ割註ヲ加フ

(水雷敷設隊附主計ヲシテ現金前渡官定タラシムルトキハ敷設隊司令)

別紙第八號書式ヲ加フ



二十七

海軍

0111

第八號書式

明治 年 月 日 金櫃現在金

種 類	明治 年 月 日 金櫃現在金										
	十圓兌換紙幣	五圓兌換紙幣	五十錢銀貨	二十錢銀貨	十錢銀貨	五錢銅貨	二錢銅貨	一錢銅貨	何々	何々	外國貨幣
百											
十萬											
千	壹										
百	〇	五									
十	〇	〇	五	參	貳	壹					
圓	〇	〇	〇	〇	〇	〇	五	壹			
十	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	五			
錢	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇			
厘	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇			
合 計											

此金額は貨幣兌換率(高)中日本貨幣ノ合計ニ符合スルモノトス

此金額は貨幣兌換率(高)中日本貨幣ノ合計ニ符合スルモノトス

0112

明治三十一年
三月二十一日
止

廢止

達第三十四號

海軍大臣ニ於テ別表ノ標準ニ據リ軍艦及水雷艇ノ類別及等級ヲ定メ若ハ其ノ變更ヲ行フ
ニトテ得セシメラル

明治三十一年三月二十一日

海軍大臣 侯爵西郷從道

二十八
海軍

0113

水 雷 艇					軍 艦															
類 別	等 級	計 畫 排 水 量	類 別	等 級	計 畫 排 水 量	水 雷 母 艦	通 報 艦	砲 艦		海 防 艦			巡 洋 艦		戰 艦		類 別	等 級	計 畫 排 水 量	
								二 等	一 等	三 等	二 等	一 等	三 等	二 等	一 等	二 等				一 等
四 等		二十噸未滿						二 等	一 等	三 等	二 等	一 等	三 等	二 等	一 等	二 等	一 等			
三 等		七十噸未滿二十噸以上						千噸未滿	千噸以上	三千五百噸未滿	七千噸未滿三千五百噸以上	七千噸以上	三千五百噸未滿	七千噸未滿三千五百噸以上	七千噸以上	一萬噸未滿	一萬噸以上			
二 等		百二十噸未滿七十噸以上																		
一 等		百二十噸以上																		
驅 逐 艇																				

改正

明治三十一年
三月二十一日
次

達第三十五號

軍艦及水雷艇類別等級別紙ノ通定ム

明治三十一年三月二十一日

海軍大臣 侯爵 西郷從道

二十九

海軍

0115

明治三十一年三月二十三日
三
本字
廢止

連第三十六號

水路圖誌水路測器供給規則左ノ通定ム

明治三十一年三月二十三日

海軍大臣 侯爵 西郷從道

水路圖誌水路測器供給規則

第一條 此ノ規則ニ於テ水路圖誌ト稱スルハ此ノ規則ノ圖誌供給表ニ掲クル圖書ニシテ
秘密ニ屬セサルモノ及其ノ他水路航海ノ術ニ必要ナル圖書類ヲ謂ヒ水路測器ト稱スル
ハ此ノ規則ノ測器供給表ニ掲クル物品及其ノ他水路航海ノ術ニ必要ナル器械類ヲ謂フ
水路圖誌及水路測器ハ省略シテ單ニ圖誌及測器ト稱スルコトアリ

第二條 海圖ノ區域ヲ分ツコト左ノ如シ

第一區 東經九十五度ト同百七十度トノ間ニシテ北ハ北緯六十五度ヲ以テ限リ南ハ東
經九十五度ト同百十度トノ間南緯十度ヲ以テ限リ東經百十度ト同百三十度ト
ノ間ハ赤道ヲ以テ限リ夫ヨリ以東ハ北緯二十度ヲ以テ限ル方面
第二區 東經三十度ヨリ同百八十度ヲ過キ西經七十度ニ至ル間ニシテ北緯ハ七十度、



三十

海軍

南緯ハ六十度ヲ限ル方面ヨリ第一區及米國東岸並蘇西運河以北ニシテ東經九
十度以西ニ屬スル部分ヲ除キタル方面

第三區 第一區第二區外ノ方面

第一區及第二區ニ跨ル所ノ海圖並第一區第二區及第三區ニ跨ル所ノ海圖ハ總テ之ヲ第
一區海圖トシ第二區及第三區ニ跨ル所ノ海圖ハ之ヲ第二區海圖トス

第三條 圖誌ノ發行及配布並廢止ハ其ノ都度海軍大臣ノ命ヲ承ケ水路部長之ヲ公布ス但
シ一小部ノ改正増補等ニ關スル告示ノ類ハ水路部長直ニ之ヲ行フ

第四條 艦團其ノ他各部ニ供給スヘキ圖誌ノ定數ハ圖誌供給表ニ依リ測器ノ定數ハ測器
供給表ニ依ル

水路部ハ東京ニ在ル各廳及各鎮守府測器庫ニ圖誌ヲ供給ス
各鎮守府測器庫ハ鎮守府管下ノ艦團其ノ他各部ニ圖誌及測器ヲ供給ス

第五條 水路部若ハ測器庫ヨリ供給スル圖誌ハ總テ最新ノ改正ヲ經タルモノタルヘシ
橫須賀鎮守府測器庫ハ艦隊幕僚ニ圖誌及測器ヲ供給ス

水路部及測器庫ハ常ニ新版若ハ大改正ノ圖誌ヲ最モ迅速確實ナル方法ヲ以テ海軍部内

0117

ニ供給スルコトヲ努ムヘシ

第六條 水路部ニ於テ新ニ圖誌ヲ出版若ハ購入シタルトキハ之ヲ各鎮守府測器庫其ノ他
定例ノ箇所ニ供給スヘシ

測器庫ハ前項ノ供給ヲ受クルトキハ圖誌供給表ニ依リ速ニ之ヲ艦團其ノ他各部ニ供給
スヘシ

艦團其ノ他各部ニ於テ前項ノ供給ヲ受ケタルトキハ不用ノ圖誌ハ速ニ之ヲ還納スヘシ
但シ廢版ノ圖誌ハ還納スルニ及ハス主管者ニ於テ適宜處分スヘシ

第七條 水路部ニ於テ新ニ圖誌ヲ出版シタルトキハ之ヲ各國ノ水路部、諸官憲又ハ帝國
ノ諸官衙、公署等ニシテ其ノ出版圖書ヲ互ニ交換若ハ寄贈スルヲ定例トナス者ニ寄贈
シ又各國ノ水路部、諸官憲又ハ帝國ノ諸官衙、公署等ニ於テ臨時ニ水路部出版ノ圖誌
ヲ請求スルトキハ事情ニ應シ適宜之ニ應スヘキモノトス

第八條 測器庫ハ艦船役務ノ變更若ハ戰時編制及出師準備計畫實施ニ當リ艦團其ノ他各
部ニ供給スヘキ圖誌及測器ヲ豫メ常ニ準備貯藏スヘシ

測器庫ハ海圖區域第二及第三區ノ圖誌ハ現ニ供給シアルモノ、外豫備トシテ各一部ヲ

常ニ貯フヘシ

測器庫ハ測器及海圖區域第一區ノ圖誌ハ現ニ供給シアルモノ及本條第一項ニ依リ準備
貯藏スルモノ、外豫備トシテ若干部ヲ常ニ貯フヘシ

第九條 水路部ニ於テハ常ニ第二區ノ海圖ハ各十二葉以上、之ニ應スル水路誌ハ同ク五
部以上ヲ貯藏シ第三區ノ海圖ハ各三葉以上、之ニ應スル水路誌ハ同ク二部以上ヲ貯藏
スヘシ

第十條 水路部ハ圖誌ノ、測器庫ハ測器ノ戰時ニ於ケル缺損補給用トシテ各供給表並戰
時編制及出師準備計畫ニ依リ定メラレタル定數ノ凡ソ十分ノ二ヲ平時ニ於テ常ニ準備
貯藏スルカ若ハ必要ニ當リ應急製出ノ方法ヲ定メ又此ノ現品ヲ急速供給シ得ヘキ方法
ヲ豫メ設テ置クヘシ

第十一條 圖誌供給表若ハ測器供給表ニ依リ圖誌若ハ測器ノ供給ヲ受クルコト能ハサル
應ニ於テ圖誌若ハ測器ヲ要スルトキハ圖誌ハ水路部若ハ測器庫ヨリ、測器ハ測器庫ヨ
リ一時必要ノ分ヲ貸與スルコトアルヘシ

圖誌貸與中ニ其ノ改正アルトキハ水路部若ハ測器庫ハ貸與先キニ應シ必要ト認ムルモ

0118

ノニ對シ供給先キニ對スルト等シク必要ノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條 艦船本管鎮守府管區外ニ在テ圖誌及測器ヲ要スルトキハ便宜最近ノ測器庫ニ
請求スルコトヲ得但シ艦船第一區以外ニ航行セントスルニ當リテハ所要ナル圖誌ハ便
宜ニ從ヒ水路部ニ請求スルコトヲ得

不用ノ圖誌及測器ヲ還納セントスル場合亦同シ

第十三條 外國ニ於テ竣工若ハ購入シタル艦船本邦ニ回航前ニ圖誌及測器ノ供給ヲ要ス
ルトキハ圖誌及測器ニシテ帝國海軍若ハ本邦製ノモノアルモノハ水路部若ハ測器庫ヨ
リ之ヲ供給シ其ノ外國ノ圖誌若ハ測器ヲ用フルモノハ外國ニ於テ必要ノ部分ヲ購買シ
本邦ニ回航ノ後定數外ノ圖誌ハ之ヲ水路部若ハ測器庫ニ、定數外ノ測器ハ之ヲ測器庫
ニ納付スヘシ

第十四條 測器庫ハ測器供給表並戰時編制及出師準備計畫ニ依リ定メラレタル定數ノ測
器並戰時補給用ノ測器ヲ豫算ノ許ス限リ漸次充實スルコトヲ努ムヘシ

附則

第十五條 明治二十四年達第十一號水路圖誌供給規則並同二十五年達第三十三號兵備品

三十二

海軍

測器定數表ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス



0119

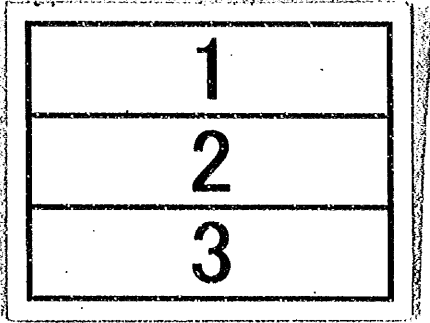
圖誌供給表

圖誌名稱	供給場所	在役艦				司令官 幕僚	艦隊 設隊	艦隊 艇隊	水雷艦		*備考 見目	海軍省	軍令部	海軍府
		第一	第二	第三	特別				第一	第二				
海圖第一區	(括)	二	二	二	一	一	一	一	一	二	一	一	一	
海圖第一區中 ル方面ノ部	(括)	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
海風及海流圖	(部)	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
海圖第一區ノ水路誌	(部)	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
水路誌追補	(部)	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
右ニ對スル水路誌追補	(部)	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
水路報告示	(部)	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
水路報導	(部)	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
航海曆	(部)	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
東洋燈臺表	(部)	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
水路雜誌	(部)	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
航海日誌	(部)	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
航海日誌摘要報告	(部)	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
水雷艇日誌	(部)	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
水雷艇日誌摘要報告	(部)	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
航海報告	(部)	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
以上ノ外水路航海ノ術ニ必要ナル圖書	(括)	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	

備考

- (一) *ハ軍港部、學校、練習所、艇隊、敷設隊等ニシテ排水量百噸以上ノ第四種船ヲ現ニ附屬セラレ、コト左ノ隻數ナルモノト云フコトヲ表ス
- (二) 圖誌ハ水路部版ノモノヲ供給スヘシト雖其ノ不備ノ部分ハ適宜英國若ハ他ノ海軍圖誌ヲ以テ補フモノトス
- (三) 海圖區域第一區以外ニ派遣ヲ命セラレタル軍艦ニハ其ノ都度必要ト認ムル部分ノ圖誌各一部ヲ供給ス此ノ圖誌ハ歸航ノ上還納スルモノトス
- (四) 練習艦ノ其ノ任務上必要ナル圖誌ハ測器庫ヨリ一時貸與ス
- (五) 水路報告示ノ内一部ハ之ヲ合輯シテ保存シ他ハ之ヲ圖誌訂正用ニ充ツ
- (六) 海軍省及軍令部用ノ圖誌ハ水路部ニ於テ、鎮守府幕僚用ノ圖誌ハ測器庫ニ於テ訂正スルモノトス
- (七) 戰時編制及出師準備計畫書ニ依リ水路圖誌ヲ供給スヘキ艦船等ニ對スル供給表ハ各測器庫ニ於テ關係ノ分ヲ本表ニ倣ヒ豫メ製シ置クヘシ
- (八) ◎ハ所管長官之ヲ定メ水路部長ニ通達ス
- (九) 本表ノ水雷艇ハ艦船搭載ノ水雷艇ヲ含有セシ排水量千噸以下ノ軍艦ニシテ其ノ容積上本表所定ノ圖誌ヲ貯藏スルニ能ハサルモノハ所管長官ノ認可ヲ得テ其ノ一部分ヲ備ヘタルコトヲ得
- (十) 水雷艇ノ航海曆ハ二等水雷艇以下ノ水雷艇ニハ之ヲ備ヘス
- (十一) 航海日誌摘要報告ハ供給シ得ヘキ最大限ヲ示ス
- (十二) 水雷艇日誌ノ内四冊ハ甲板日誌ニ充ツルモノトス

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	側器供給表
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

0121
0122
0123

属	針	及小 端蒸 舟汽 用船	鉤	天	流	航	タムソン形			量	測	經	ア イ チ ヒ シ ン ア ル ホ ラ イ グ ン	水	同	六	砂	掛	甲	經	測	名	器	場	供	給	所	軍	
							小	中	大																			上	以
		大形	鈔	測	入	用	小	中	大	鏈	儀	儀	盤	臺	儀	計	計	計	儀	儀	場	所	給	所	艦	艦	一 二七 三三 三一 一八	八	
		小形	鈔	測	入	用	小	中	大	鏈	儀	儀	盤	臺	儀	計	計	計	儀	儀	場	所	給	所	艦	艦	一 二七 三三 三一 一八	八	
		カッター形以上ノ艦一隻ニ付一個 ガン形以下ノ艦一付一個以下ノ艦一付一個	鈔	測	入	用	小	中	大	鏈	儀	儀	盤	臺	儀	計	計	計	儀	儀	場	所	給	所	艦	艦	一 二七 三三 三一 一八	八	
			鈔	測	入	用	小	中	大	鏈	儀	儀	盤	臺	儀	計	計	計	儀	儀	場	所	給	所	艦	艦	一 二七 三三 三一 一八	八	
			鈔	測	入	用	小	中	大	鏈	儀	儀	盤	臺	儀	計	計	計	儀	儀	場	所	給	所	艦	艦	一 二七 三三 三一 一八	八	
			鈔	測	入	用	小	中	大	鏈	儀	儀	盤	臺	儀	計	計	計	儀	儀	場	所	給	所	艦	艦	一 二七 三三 三一 一八	八	
			鈔	測	入	用	小	中	大	鏈	儀	儀	盤	臺	儀	計	計	計	儀	儀	場	所	給	所	艦	艦	一 二七 三三 三一 一八	八	
			鈔	測	入	用	小	中	大	鏈	儀	儀	盤	臺	儀	計	計	計	儀	儀	場	所	給	所	艦	艦	一 二七 三三 三一 一八	八	
			鈔	測	入	用	小	中	大	鏈	儀	儀	盤	臺	儀	計	計	計	儀	儀	場	所	給	所	艦	艦	一 二七 三三 三一 一八	八	
			鈔	測	入	用	小	中	大	鏈	儀	儀	盤	臺	儀	計	計	計	儀	儀	場	所	給	所	艦	艦	一 二七 三三 三一 一八	八	
			鈔	測	入	用	小	中	大	鏈	儀	儀	盤	臺	儀	計	計	計	儀	儀	場	所	給	所	艦	艦	一 二七 三三 三一 一八	八	
			鈔	測	入	用	小	中	大	鏈	儀	儀	盤	臺	儀	計	計	計	儀	儀	場	所	給	所	艦	艦	一 二七 三三 三一 一八	八	

測器供給表

考 備	定 規	三 杆 分 度 器		潮 見 杆	サ ブ マ リ ン セ ン ト リ	測 程 儀 機 械 的 常 形	水 深 器		ボ リ メ ー ト ル	秤 器	寒 暖 計			晴 雨 計	雙 眼 鏡		
		平 行 式	大 形 (六吋)				ハ イ ム ソ ン 形	タ ム ソ ン 形			通 常 (機 關 部 用 ノ モ ノ ヲ 除 ク)	乾 濕	水 銀		小 蒸 汽 船 及 端 舟 用	本 艦 用	小 形
(一)	軍艦ニ小蒸汽船ヲ備フルトキハ本表ニ掲クル定數ノ外一般ニ付毎日巻掛時計各一個ヲ加フ																
(二)	凡テ艦船ノ測器ハ成ルヘク艦船ノ製造當初ニ備付タルモノヲ維持スヘシ但シ舊式ニ屬シ之ヲ保持スルモ甚シク不利ナルモノハ測器庫主管ノ見込ヲ以テ漸次新式ノモノト交換スルモ妨ケナシ																
(三)	測量艦ノ其ノ任務上必要ナル測器ハ水路部ヨリ一時交付ス																
(四)	練習艦ノ其ノ任務上必要ナル測器ハ測器庫ヨリ一時貸與ス																
(五)	經線儀ハ當分ノ間適當ノモノ不足スルトキハ測器庫主管ニ於テ一週間巻毎日巻ヲ混用交付スルコトヲ得																
(六)	望遠鏡ハ當分ノ間測器庫主管ニ於テ大形小形ヲ混用交付スルコトヲ得																
(七)	雙眼鏡ハ「ナイトグラス」ヲ得難キトキハ測器庫主管ニ於テ一時通常ノモノヲ代用交付スルコトヲ得																
(八)	時計類ハ左ノ期限内ニ測器庫ニ托シ(測器庫速隔ノ地ニ在リテハ適當信用スヘキ時計師ニ托スルコトヲ得)修理ヲ加フヘキモノトス 經線儀 一年乃至二年 甲板時計 六箇月乃至一年 掛時計 一年乃至一年半																
(九)	表中(※)符ハ各水雷術所及探海電燈座毎ニ各「意味」ス																
(十)	表中(×)符ハ各敷設方面毎ニ各「意味」ス																
(十一)	要港部若ハ水雷團ノ千里鏡、經緯儀、測量鐘及檢潮器ハ必要アルトキハ敷設隊用ニ充ツルコトヲ得																
(十二)	要港部若ハ水雷團ノ乾濕寒暖計ハ敷設隊ノ試驗室用ニ充ツルモノトス																

達第三十七號

秘密圖書測器海圖出納規程中左ノ通改正ス

明治三十一年三月二十三日

海軍大臣 侯爵 西郷 從 達

第一條 本規程ノ圖書トハ秘密圖書秘密圖書取扱規則第一條ニ記載スル及圖誌ヲ謂ヒ測器トハ測器庫主管ノ管理ニ屬スル測器ヲ謂フ

秘密圖書ノ出納順序ハ發行ノ廳長適宜之ヲ定ムルコトヲ得但シ毎年度間ノ出納計算書ハ本規程第十四條ニ出納精確ノ證明ハ第十五條ニ依ルヘシ

測器圖誌ノ定數ハ水路圖誌水路測器供給規則ニ依ル

第七條ニ左ノ一項ヲ追加ス

前項ノ場合ニ於テハ兵備品會計官吏ハ左ノ様式ニ依リ事由書ヲ製シ出納命令官ノ證明ヲ受ケ之ヲ計算書ニ添付スヘシ

(様式)

秘密圖書測器海圖亡失事由書

三十三

海軍

一金

亡失秘密圖書測器海圖合計

内譯

金

秘密圖書

但シ(亡失ノ事由)

金

測器

但シ同斷

金

何々

但シ同斷

右之通相違無之候也

年/月/日

兵備品會計官吏姓 名印

會計検査院長宛

右證明候也

出納命令官姓 名印

第十四條但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ兵備品會計官吏交替ヲ爲シタルトキハ便宜上別ニ計算書ヲ調製セス後任官吏一併ニ調製シ末尾ニ各官吏執行ノ管理期ヲ記載シ各署名捺印シ證明スルコトヲ得
第十四條第十五條中「會計監督部」ヲ「下検査官吏」ニ改メ第十四條中「海關」ヲ「國誌」ニ改メ

三十四
海軍

0125

達第三十八號

海軍教禮式中別紙ノ編改正セラレ

明治三十一年三月二十五日

海軍大臣 侯爵 西郷 從道

三十五

海軍

0126

第十二條中「軍艦ノ構造艦船ノ運用上其ノ他」ヲ「艦船ノ構造運用上及演習等」ニ改ム
第十六條中「及」ヲ「ニ準據シ軍艦ニ搭載スヘキ水雷艇ノミハ」ニ改ム
第十七條ヲ第十七條甲トシ同條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第十七條乙 儀式祝典等ニ當リ一境域内全體ニ係ル禮式ハ條例規則ノ明示スル所ニ據
リ之ヲ齊一ニシ又必要ナル順序等ヲ示スハ左ニ掲クル諸官ノ任トス

東京 海軍大臣

各軍港 鎮守府司令長官

各要港 要港部司令官

其ノ他各地

軍隊指揮權ヲ有スル所在海軍先任將校其ノ地ニ勤務ノモノタルト否トナ同ハス

前項中軍港要港ニ在ラハ鎮守府司令長官若ハ要港部司令官ノ定メタルモノハ他ノ司
令長官司司令官ヲシテ官ノ高下ノ如何ヲ論セス等シク遵守セシムヘキ效力アルモノト
ス

第十七條丙 本式ニ規定セサル特別ノ場合ニ行フヘキ禮式ハ海軍大臣臨時之ヲ定ム

第四十條第四十四條第百二條及第百五十二條中「士官以上」ヲ「准士官以上」ニ改ム

海軍

第四十七條及第百三十二條中「下士卒」ヲ「卒」ニ改ム

第五十九條ヲ第五十九條甲トシ同條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第五十九條乙 帝國軍艦ニ對シ外國ノ軍艦ヨリ衛兵禮式又ハ奏樂等ヲ爲シ敬意ヲ表ス
ルトキハ之ニ對シ相當ノ答禮ヲ行フヘシ又前後ノ關係上我ヨリ之ヲ行フヲ適當ト認
ムルトキハ適宜之ヲ行フコトヲ得

第六十條中「及艦長ハ舷門ニ於テ」ヲ「艦長及當直將校ハ舷門ニ」ニ改メ同條及第六十五條
中「上等兵曹」ヲ「兵曹長(上等兵曹)」ニ改ム

第六十二條第六十八條第七十條第七十三條第七十四條第七十五條第七十八條及第八十四
條中「當直士官」ヲ「當直將校」ニ改ム

第六十二條中遇フトキハノ下ニ「本條ノ敬禮ヲ行フニ當リ先ツ」ヲ加フ
第六十三條ヲ左ノ如ク改ム

第六十三條 天皇乘御ノ舟艇ニ於テハ海軍中佐若ハ少佐指揮ヲ司リ海軍中尉若ハ少尉
舷ヲ按スヘシ

第六十五條中「及副長ハ舷門ニ於テ本艦」ヲ「副長及當直將校ハ舷門ニ他ノ」ニ改メ准士官

ノ上「本艦」ヲ削リ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

勅使來艦スルトキハ前項ニ依リ敬禮ヲ行フヘシ

第六十六條ヲ左ノ如ク改ム

第六十六條 艦隊司令長官若ハ司令官初メテ其ノ旗艦ニ赴任スルトキ若ハ職ヲ解キ旗艦ヲ退クトキハ總員禮服ヲ着シ左ノ敬禮ヲ行フヘシ但シ時宜ニ依リ敬禮ヲ行フヘキ先任將校ハ受禮者ノ意ヲ受ケ他ノ服裝ヲ用ヒシムルコトヲ得第七十一條第四百四十二條第五百十條ノ場合亦之ニ準ス

一 司令長官艦下司令官ニ對シテハ司令官參謀長艦長所在艦下艦長ヲ包含ス副長及當直將校ハ舷門ニ迎送ス

二 本艦高等武官ハ其ノ舷側後甲板ニ序列シ迎送ス

三 上等兵曹一名號笛ヲ吹キ水兵四名舷梯側ニ立ツ

四 衛兵衛兵司令之ヲ指揮スハ對舷ニ整列捧銃シ喇叭手ハ「海行カバ」ヲ吹奏ス

五 准士官ハ甲板中部ニ下士卒ハ甲板前部ニ整列ス

海軍大臣將官若ハ司令官タル大佐公務ヲ帶ヒ豫メ通報シテ來艦スルトキハ總員軍服

海軍

ヲ着シ前項ノ敬禮ヲ行フヘシ

軍艦ニ臨御アルカ又ハ皇族ノ來艦アルカ爲前項ノ諸官陸續出入スルトキハ一々之ニ對シ第一項ノ敬禮ヲ行ハス適宜之ヲ省畧シ第六十七條乃至第六十九條ノ敬禮ノ一ヲ施行スルコトヲ得

第六十七條中大佐ノ下ニ「公務ヲ帶ヒ豫報ナクシテ來艦シ又ハ」ヲ加フ

第六十九條及第七十條中「及副長」ヲ「副長及當直將校」ニ改ム

第七十條中退クトキハノ下ニ「總員軍服ヲ着シ」ヲ加ヘ艦長ノ上ニ「舊或ハ新參謀長」ヲ加フ

第七十一條第一ヲ左ノ如ク改ム

一 舊或ハ新艦長參謀長大佐ニシテ艦長ノトキニ限ル副長及當直將校ハ舷門ニ迎送ス

第七十六條中「當直士官」ヲ「副直將校」ニ改ム

第七十七條中「副直士官舷門ニ送迎シ」ヲ削ル

第七十八條中行フヘシノ下ニ「水雷艇司令其ノ艇ニ司令旒ヲ掲ケテ來艦スルトキ亦同シ」ヲ加フ

第七十九條乃至第八十三條ヲ左ノ如ク改ム

第七十九條 佐官同相當官來艦スルトキハ艦長同官階以下ノトキ若ハ副長同官階以下ノトキ及當直將校ハ舷門ニ出迎シ兵曹一名號笛ヲ吹キ號笛ハ將校ノ用ヲ水兵二名舷梯側ニ立チ各敬禮ヲ行フヘシ但シ大佐ニ對シテハ衛兵衛兵伍長之ヲ指揮スハ捧銃スヘシ

第八十條 大尉以下ノ高等武官來艦スルトキハ當直將校若ハ副直將校ハ舷門ニ出迎シ水兵一名舷梯側ニ立チ各敬禮ヲ行フヘシ但シ外國ノ尉官ニ對シテハ兵曹一名號笛ヲ吹ク

第八十一條 全權辦理大臣若ハ外國駐劄ノ我公使公務ヲ帶ヒ來艦スルトキハ將官ニ準シ第六十六條若ハ第六十七條ノ敬禮ヲ行フヘシ但シ公使ニ對シテハ此ノ敬禮ハ該公使ノ駐劄國內ニ限ルモノトス

第八十二條 外國駐在ノ我外交官公使ヲ除ク若ハ領事官公務ヲ帶ヒ來艦スルトキハ艦長ニ準シ第七十八條ノ敬禮ヲ行フヘシ但シ此ノ敬禮ハ該外交官若ハ領事官ノ駐在國內ニ限ルモノトス

第八十三條 勅任文官來艦スルトキハ司令長官同官等以下ナルトキ司令官同參謀長同艦長副長及

海軍

當直將校ハ舷門ニ出迎シ水兵親任官ニハ四名其舷梯側ニ立チ各敬禮ヲ行フヘシ他ノ者ニハ二名舷梯側ニ立チ各敬禮ヲ行フヘシ第八十四條中艦長ト同等以上ノトキノ下ニ「若ハ副長艦長ト同等以下ニシテヲ加フ」第九十一條ヲ第九十一條甲トシ同條中降ルトキハノ下ニ「端舟又ハ小蒸汽船ニ乗組ムトキニ限リテ」ヲ加ヘ同條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第九十一條乙 軍艦入渠中ナルトキ及陸岸ニ近接繫維中ハ本章ノ規定ノ外第六章ニ定ムル所ニ準シ適宜敬禮ヲ行フヘシ

第九十三條第二項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ
端舟水岸ニ於テ車駕ニ遇フトキハ第一項若ハ第二項ノ敬禮ヲ行フヘシ
行幸ノ塲所ニ於テハ御舟ノ外他ノ端舟ハ天幕ヲ用ヒサルヲ禮トスト雖異狀ナル天候ニ際シ特令ヲ以テ許可シタルトキハ天幕ヲ張リタル端舟ハ棹ヲ立ツル場合ニ棹ヲ上ケ又棹手ハ坐シタル儘姿勢ヲ正スモノトス

第九十七條中「行フヘシ」ヲ「行ヒ端舟指揮ハ坐シタル儘敬禮ヲ行フ」ニ改ム

第九十八條中「引」ヲ「牽」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ
端舟牽舟シタルトキ、積荷シタルトキ、牽舟若ハ積荷シタル舟ニ付添フトキ若ハ葬式

ノ列中ニ在ルトキハ敬禮ノ爲停止スルコトナシ

第百條中「敬禮ヲ行フヘシ但士官以上ニ對シテハ」ヲ削ル

第百一條ヲ削除ス

第百三條ニ左ノ一項ヲ加フ

天皇乘御ノ端舟ハ禮砲ヲ受タル間ト雖進行ヲ停止スルコトナシ

第百七條ヲ第百七條甲トシ同條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第百七條乙 武裝セサル部隊行進中車駕ニ遇フトキハ直ニ停止シテ道路ノ一側ニ整列

シ前條ノ敬禮ヲ行フ

第百九條ヲ左ノ如ク改ム

第百九條 准士官以上ノ引率セル軍隊下士以下ノ引率セル軍隊ニ對シテハ其ノ隊長ノ

マ答禮ヲ行フヘシ

第百十一條中軍隊ノ上ニ「武裝セル」ヲ加フ

第百十四條中第百十一條ノ上ニ「第百七條乙及」ヲ加フ

第百二十九條中捧銃シノ下「敬禮ヲ行ヒ」ヲ削リ下士ノ下ニ「ニハ立銃シテ姿勢ヲ正シ敬

海軍

禮ヲ行ヒヲ加フ

第百三十七條ニ左ノ一項ヲ加フ

儀仗兵ノ編制ハ所在先任將校之ヲ掌ル

第百四十四條中「儀仗兵ハ」ヲ「儀仗隊現ニ儀仗服務ノ位置ニ在ルトキハ」ニ改ム

第百四十六條中「少佐」ヲ「中佐」ニ改ム

第百五十條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ同日他ノ主要ナル儀式ニ於テ禮服ニ非サル服裝ヲ要スルトキハ其ノ服裝ヲ用フ
ルコトヲ得

第百五十二條第一中軍艦ノ下ニ「及水雷艇」ヲ加ヘ同條第二中軍艦一隻ノ下ニ「又ハ水雷

艇若干隻」ヲ加フ

達第三十九號

海軍圖書管理規則第二條中左ノ通改ム

明治三十一年三月二十五日

海軍大臣 侯爵西郷從道

- 二 鎮守府所管各廳所用ノ圖書ハ各鎮守府經理部
- 三 學校練習所(造船工練習所ヲ除ク)所用ノ圖書ハ各其校所

達第四十號

雇員備人規則第三條別表中左ノ通改正ス

明治三十一年三月二十五日

海軍大臣 侯爵西郷從道

富士及八島ノ欄剝夫ノ部ニ「四」ニ改ム
高砂ノ次ニ左ノ欄ヲ加フ

豊	橋	一	四	一	一
---	---	---	---	---	---

三十六

海軍

備考ノ欄四ノ次ニ左ノ通追加ス

五 軍艦半定員若クハ留守定員ヲ置カル、場合ニ在ラハ本表ノ人員ハ半數以下ニ減スルモノトス

0131